

【dis-Piano 製作にあたって】

私は中学生の頃ギターを手にして以降、学生時代は歌作りやバンド活動をしていました。かなり真面目に取り組んだつもりでしたが、やはり自身の才能の無さを知ったことが最大の収穫であったような気がします。20歳代中盤になると、遅ればせながらクラシック音楽や民族音楽など、世間にはまだまだ未知の素晴らしい音楽が存在することを知りました。

私は精神科医師をしていることもあり、1990年代当時ブームとなっていた〈音楽療法〉を通じて多くの音楽の専門家・仲間たちと出会う機会を得ました。趣味で音楽に接していた私にとっては、この上もない幸せな出来事で、もう一度音楽と向き合う貴重な日々でした。

もともと「何か表現（創作）したい」と考えていた私は、いつの間にか大好きなピアノの音で“ピアノ曲集”を書いてみたいと考えるようになりました。ピアノをまともに弾けない男（disability for PIANO）が書いたピアノ曲集〈dis-Piano〉なかなか面白いコンセプトではないかと…。「音楽の勉強も兼ねてひとつやってみるか！」当時の仕事仲間に宣言してみました。一度口に出すと後へは引けず、2007年、作業はスタートしました。パソコン君は楽譜ソフトで作った音楽を、愛想が無い代わりとして正確無比に再現してくれました。

当直の夜、誰からも邪魔されず、延々と続いたこれらの作業は、その時々、身の周りに起こった出来事を背景とした自身の心のドキュメントになりました。作業自体は苦しくとも1曲完成すると何とも言えない充実感・恍惚感！収録順は、製作した順序とほぼ同じに設定しました。目指したものは、聴きやすく、それなりの刺激や主張が存在する音楽であればと思っています。楽しんでお聴き頂ければそれ以上の喜びはありません。

—2012年6月、クマモト ショウジロウ (umraut@hotmail.com)—

Tr 01 ; New Moon (2007.03.15.)

初めて作ったピアノ曲、また作業は夜進むということで〈新月〉と付けました。拍子のズレやサティっぽいところもあり、今でも結構気に入っています。

Tr 02 ; Night & Marble (2007.03.30.&05.18.)

音や和声的にひねくれたものに関心を寄せていた時期です。パソコンでは、転調もクリックひとつで可能なので幾つか入れてみました。桜がちょうど満開から散りそうな季節でした。全曲書き上がった後、元々は2つの曲でしたが、コラージュのように貼り合わせて一つにしました。

Tr 03 ; 遠い日の午後 〈toi-hino-gogo〉 (2007.08.10.)

メジャーセブンスの響きを中心に軽い感じで、〈遠い日〉とは過去か未来か？いつかゆっくり紅茶でも飲みながら聴け（弾け）たら良いと願いつつ、書いてみました。

Tr 04 ; Fenestra (2007.11.06.)

担当の患者様が風景画を描いていてそのタイトルが「フォント・シャネル」というものでした。いつも見慣れたはずのその窓(fenestra)から切り取られた景色がフランスの田舎の風景のように感じられました。勿論フランスなど行った事はないのですが、その彼のセンスに一本取られた事を思い出します。

Tr 05 ; Invisible Snow (2007.12.18.)

この頃は暖冬で雪を見ることも少なくなっていました。しかし、年内と年明けでは“雪”の風情は決定的に異なるものだと思います。この曲では孤独な夜更け（当直中）に、確かに見た（ような気がした）、“冷たいけれども優しい雪”をイメージしてみました。

Tr 06 ; Dominish (2008.02.15.)

当初はピアノ協奏曲(カレーのCMでの中村紘子)のような音楽を想像しつつ創作を始めてみたのですが、出来上りは、アナログ時計の秒針が刻むような、ドミノ倒しのような音楽になりました。

Tr 07 ; ハルイズム 〈Haru-ism〉 (2008.05.05.)

歳を取るたびに春の訪れが嬉しく感じられるのは私だけでしょうか？

Tr 08 ; tabledance (2008.06.19.)

若干やけくそな雰囲気は否めません。しかし最初の4小節作ってしまったら後へは引けない！

Tr 09 ; Möbius Blue (2008.07.30.)

前作を払拭すべく“静かで力のあるものを”と考えていました。結果は〈宇宙戦艦ヤマトは地球へ戻ってきたけど、そこには何故か絶望しかなかった〉というイメージになったような気がします。丁度この頃は、私の周囲にもあまり面白いとはいえない出来事が幾つかあった日々でした。

Tr 10 ; Silent Echoes (2008.11.24.)

イントロがテクノな感じ(円盤型 UFO が飛んできた!)ではないかと思うのですが、いかがでしょうか？何故こう始まってこんな風に終わるかは謎です。エンディングは、中国の壮大な歴史roman映画のエンドロールのイメージで…。

Tr 11 ; Re-(c)ession #9 (2009.02.23.)

年末から不景気な話題ばかりがニュースで流れていました。それとこの曲は全く関係が無いのですが、曲中のヒステリックなムードは、この頃の自分の気分だったのかもかもしれません。

Tr 12 ; Water for A MAN (2009.05.17.)

G. W. に清志郎が亡くなったり、何やかやで…。色んなことが穏やかに過ぎていくことを願って。

Tr 13 ; Nine plus Five (2009.11.30.)

慢性的なスランプ状態が続いていました。曲集中一曲位は連弾風のものを書いてみたかったのですが、実際は音域が重なってたりで1台のピアノでは弾けそうにありません。MIDI (自動演奏)ピアノがあればぜひ弾かせてみたいと思います。タイトルは当初14曲目収録の予定だったので。

Tr 14 ; DOTAGE II (2010.03.11.)

タイトルは“老いぼれ”や“溺愛”の意。退廃的で他愛なき物語をイメージし、ポルカや古いサーカス音楽の感覚で。この頃ドラマ〈不毛地帯〉に嵌り Tom Waits をよく聴いていました。因みに彼のアルバム〈Rain Dogs〉は最高です。御一聴あれ！

Tr 15 ; Else If (2011.03.12.)

タイトルはコンピュータ言語ということですが、私的には意味不明！ただ、響きが良かったので。

Tr 16 ; La Corte (2010.09.22.)

この年の春、仕事からみで福岡へ出かける事があり、途上に立ち寄ったイタリアンレストランの名前から曲のイメージをインスパイアされました。CDジャケットは、その場所を携帯カメラで撮影し、後に地元のカメラ屋さんで自身を撮影し、合成したものです。

Tr 17 ; two complex (2007.06.08.&2011.09.12.)

この曲は制作初期の頃に作っていたのですが、いろいろ見直しをする段階で一旦ボツにしました。その理由は、初めはドリフのカトちゃんのような音楽だったのです。しかし〈2つの複合体〉とあるように又々やっしまいました得意の(?)別々の曲の合成。ファンク・ブルース・ジャズ・クラシック、幾つかの音楽要素を感じつつノットた感じで聴いてい頂ければ本望です！

Tr 18 ; Another Moon (2010.10.18.)

本CD製作途中に半分程出来ていました。最初が〈New Moon〉とくれば最後はこれだろう！とその時点で決めました。この作業を最後までやり終えたことを周囲の方々に感謝です。

Tr 19 ; Thema for KURO-chan (2009) & Tr 20 ; Thema for P-chan(2008)

この2曲は、“dis - Piano”本編とは違う Bonus Tracks。両者とも私が眼の中に入れても痛くない(表現が古すぎ!)と愛情を注いでいる愛猫です。先住猫のPちゃん(♂)は、ある夏の日、我が家へ勝手に遊びにきたクロちゃん(♀)を威嚇すべく激しく鳴いていたのですが、結局彼女は居ついてしまいました。彼らに曲をプレゼントできてとても幸せな気分なのです。